

「兜飾り」が彩る今年の五月人形商戦
早まる購入時期 3月中旬から下旬がピーク



端午の節句を祝う五月人形（東京・浅草橋 吉徳本店）

端午の節句。それは初節句を迎える男児の誕生をお祝いするとともに、その健やかな成長を祈る日本独自の伝統文化行事です。

まもなく本格化する五月人形商戦。人形の総合企業・株式会社吉徳（111-8515 東京都台東区浅草橋 1-9-14、創業正徳元年・1711 年、資本金 1 億円、社長：12 世山田徳兵衛 <https://www.yoshitoku.co.jp/>）は、浅草橋本店をはじめとする全国 12 直営店舗にてお客様が納得の人形選びをしていただけるよう万全の体制を整えています。

五月人形の役割

江戸時代、武家では男児の誕生を祝い、鎧兜や幟旗を飾ってその健やかな成長を祈りました。民間でもこれを真似、大きな作り物の兜や武者人形、幟旗を飾るようになりました。これらの飾りは当初、天の神様の目印となるように屋外に飾っていましたが、江戸時代中期以降、幟旗以外は小型化したものを屋内に飾るようになりました。

五月人形の主役は甲冑（鎧兜）。これは武家の宝物であり、刀とともに武士の象徴であったことに由来します。また身を守る大切な道具であるとともに美しい甲冑を飾って、男児の輝かしい未来を祝福するものです。

吉徳では、飾る意義やお子様のためのぴったりの五月人形選び、飾る楽しみをお客様へお伝えしています。

年々早まる購入時期 ピークは3月中旬から月末

購入時期については、一般的にはお彼岸の時期を過ぎた3月下旬からとされていますが、最近では暦に関係なく、各店舗とも桃の節句直後からお客様が多数来店されています。

品ぞろえが豊富な早い時期に好みの人形を選んで、長く飾って節句を楽しみたいというお客様の気持ちの表れと見ております。

進化する作り手の本物志向 商戦の中心は「兜飾り」

「兜飾り」と「鎧飾り」。いずれも素材は厳選され、作りは繊細で、伝統的な様式美を随所に再現するなど、作り手の本物志向はますます進化しています。

商戦は、例年通り「兜飾り」が中心と見ています。とくに兜の周囲の部分で本来は牛革で作られているものを名匠たちが和紙で細工再現した「和紙小札」（わしこざね）のシリーズがお客様の目を引いています。（170,500円～352,000円）

「鎧飾り」は兜＋武者のより雄々しいイメージを望むお客様に好まれています。また、五月人形には“顔が無い”中で、可愛い顔立ちの子ども武者が鎧兜をまとった「鎧着大将飾り」が一定の人気を集めています。

五月人形の価格幅と売れ筋価格帯

五月人形は、「種類」や「サイズ」、「作者」などの違いで価格が決められます。吉徳では今期下記の価格帯（税込）を中心に品ぞろえをしています。

- ・ 兜飾り . . . 100,000円～500,000円
- ・ 鎧飾り . . . 200,000円～600,000円
- ・ 兜収納箱飾り . . 110,000円～198,000円
- ・ 鎧着大将飾り . . 154,000円～220,000円
- ・ ケース兜飾り . . 66,000円～154,000円

売れ筋価格は「兜飾り」が17万円前後（税込）、「鎧飾り」は30万円前後（税込）と見ています。

以上